



mIRaI 通信



～輝く「未来」の中に「伊里」はある～

あいさつと防犯について考えてみた



「お客さんに100%のあいさつができるようになるにはどうしたらいいだろう。」をテーマに、2回目の教職員での協議をもちました。「来たるなわとびマラソン大会に向け、100%になるように生徒会で呼びかけて取り組もう。」「教職員が良いモデルとなろう。」等の結果となりました。

すると先日、このような記事を目にしました。

「知らない人にあいさつ」って危険なの?…というものでした。

昨今の様々な誘拐事件等を受け、「知らない人にあいさつされたら逃げるように教えているので、あいさつしないように決めて」…あるマンション内でこのような提案があり、そのマンションではあいさつが禁止になったそうです。

あいさつと防犯…これは深く考えさせられる事案です。



その記事によると、識者の談として、

「逃げることを教えるより、『あいさつしなさい』と教えて欲しい。あいさつは社会への扉を開く第一歩。大人はたとえ子供からあいさつが返ってこなくてもあいさつを続けるべきだ。」

「あいさつに続く甘い言葉や、『親が急病』といった嘘に注意するよう教えればよい。」

「大人が自らあいさつして子供にその姿を見せるしかない。いとこや親族に代わる新しい身内は地域社会。地域社会で交流することで、子供の世間が広がり人を見る目ができる。人と交流しなければ人を見る目も育たない。」

「あいさつをしない社会は怖いと言いたい。だが最近子供を見守るボランティアの現場から『子供あいさつしたら逃げられた』『不審者扱いされた』との話をよく聞く。一中略—あいさつや見守りをやめようという声が出ている。こうした風潮は子供の安全のためにならない。」

「今は学校でも、『地域の人とはあいさつしましょう。ただ、知らない大人についていってはいけない』という指導になってきている。子供の危機回避能力を育てることが重要だ。」

〈Yahoo!ニュースより抜粋〉

などの意見があげられていました。



あいさつをしない方が良いのでは…という意見が出るくらい悲しい時代になったようです。

あいさつを交わしたら、気持ちが良い経験は誰しもがしています。しかしその逆に、あいさつすることで嫌な体験をしてしまう時代ということなのでしょう。

でも、「人との交流」なしには、人間社会はあり得ません。「気持ちの良いあいさつ」をしっかりと行いつつ、危機回避能力を身につけていく…これしかなさそうです。

この複雑極まりない現在社会を、たくましく、しなやかに、賢く泳いでいきましょう。



数学で備前市中学校の研究授業



6日の5校時、1Bで早川先生が数学の研究授業を行いました。これは備前市の数学部会の研修も兼ねており、備前市内各中学校の数学の先生たちが来られました。

「ランドルト環」とは、視力検査でお世話になった(笑)、あの穴の開いた輪っかのことだそうです。これを使って「反比例」について学習を深めていくものでした。授業はいきなり代表生徒が右目にスプーン(と言うのかな?)を当てて、視力検査からスタート。保健の授業ではありません、数学の授業です(笑)。ちなみに、後の調査で、あれは「遮眼子」という名であることが判明いたしました。

興味ある題材を使用し、関心を持たせ、グループで話し合い意見を交えることによって、学習を深めていく…これから必要とされる「学力」を身につけさせるために、様々な工夫のされた授業でした。

こんな授業なら、数学超絶大の苦手の私も、少しはできるようになったかなあと、思ったりもしました。



視力検査ではありません、数学の授業です。



こんなに多くの先生に囲まれて数学の授業だなんて…(怖)。



左が中国で、右がヨーロッパで使われる視力検査表だそうです。勉強になりました。世界は広い。社会じゃありません数学ですよ。



芝生の上で戯れて…



ある日の給食後の光景です。暖かな午後、芝生の上で無邪気に遊ぶ中学生。なんとも微笑ましい光景です。中心は3年生。受験へのストレス発散でしょうか。

日光で温もった芝生は本当に気持ちがいいですね。芝生の上で遊べる伊里中学校生徒、幸せですね。



週末はなわとびマラソン大会です



実は上の記事、芝生へ取材に行ったのは、先日から給食後に、来たるなわとび大会に向けて大縄の貸し出しを開始、練習しているとふんでのことでした。5日は3年女子が練習していたそうなので、今日こそはと行くと、だ〜れも跳んでないし(苦笑)。サッカーとテニスばかり。「せんのんか?」と声をかけても、「練習しなくてもウチはバッチリですから」とか「明日しま〜す」と、つれない返事が返ってくるのみ。取材は見事空振りに終わりましたが、まあ純真な中学生の笑顔が見られたからいいか、と、どこまでもポジティブな秋山でした。

ちなみに…「ホンマに大縄ちゃんと跳べるんじゃろなあ!?!」とは、私の魂の叫びです。

先日配布された、図書室だより「のほほん」で、秋山ファクトリーを大絶賛していただき、恥ずかしくてお尻がかゆくなっています(照笑)。

次は何が飛び出すファクトリー?…と自分で自分に首を絞めるのは止めときますね(苦笑)。